

空 飛 ぶ ク ル マ

取締役執行役員 高周波統括部長 富居 博治



未来の生活を予想する時、何を思い描くでしょうか？鉄腕アトムやドラえもん？ちょっと例えが古いですか？映画ならブレードランナー、フィフスエレメント、バック・トゥ・ザ・フューチャー、最近はトム・クルーズのオブリビオンもありますね。それらの未来にはいずれも空飛ぶクルマが出てきます。自動車業界では「100年に一度の大改革」としてCASEやMaaSが話題です。そのような中でEV自動車がようやく巷で見られるようになって久しいですが、世界の最先端ではすでに空飛ぶクルマが実用化の目前まで来ています。空飛ぶクルマも100年に一度の自動車の大改革です。

空飛ぶクルマに期待されるものは多くあります。移動時間の短縮、渋滞の回避、交通事故の防止など、これらは環境や社会への貢献が主眼となっているとも言えます。この空飛ぶクルマを実現させるにはいろいろな技術が必要です。姿勢制御、バッテリー制御、モーター駆動制御、環境センシング、画像解析技術、GPS制御、通信など考え得る多くの技術が詰め込まれています。これらの多くはスマートフォンやドローンなどにも使われている技術ですが、「人間を運ぶ」「人間の頭上を飛ぶ」などの大きな問題があるために通常では考えられないほどの信頼性が必要となっています。望まれるのは利便性や環境対策なのかもしれませんが、それを実現するには改革と呼べる多くの技術の下に生み出されるのです。

2025年、大阪で万博が開催されます。この万博では会場と大阪市中心部、湾岸エリアを結ぶルートが検討されているそうです。あと2年もすれば実際に人の頭上を飛んでいく空飛ぶクルマが日常的に見られることになります。現在は4つの団体のクルマが採用されることが発表されています。日本の企業が1社、アメリカ・ドイツ・イギリスから日本の航空会社・商社が提携した企業が参加し、開催日までに型式認証を取って試験飛行を今後も続ける予定です。

2025年は電気興業においてもDKK-Plan2025の最終年となります。現在、電気興業は多くの改革を実施中です。サステナビリティ、コーポレートガバナンスの強化など働き方に対して大きな変化が求められています。電気興業は通信事業で培った知識や技術・経験が豊富ですが、このままでは事業として成長は困難な時期にきています。新規事業に打ち出す意欲や創造力が求められています。苦難に挑戦する勇気が求められています。空飛ぶクルマの開発も2025年には実用化です。用意されている時間は同じです。同じ技術者として実現したい夢があれば挑戦してみたいと思いませんか？変えて見たいと思いませんか？

多くの人が手を上げて自分の夢を語って新しい事業を生み出し、参画してくれることを期待します。